

令和3年度 豊橋商工会議所 事業報告書【概要版】

1. 新型コロナウイルス感染症の影響克服に向けた取組

- ① 各種緊急支援施策の情報収集に努めるとともに、「新型コロナウイルスに関する経営相談窓口」を設置し、資金繰りや雇用維持などを中心とする1,170件の相談に対応するほか、各種補助金申請支援等を実施した。
- ② 感染症対策に取り組む飲食店を支援するため、独自のPRステッカー及びポスターを無償提供する「安全安心おもてなし宣言飲食店」認定制度を設け、51件（延べ302件）の認定を行い、感染拡大防止対策の啓発・強化を図るとともに、感染防止対策に配慮した店舗であることを消費者に対し周知した。
- ③ 感染症の影響緩和や事業継続・回復を支援する一時支援金や事業復活支援金等の登録確認機関として、当所会員を対象に事前確認業務を実施した。
- ④ 市内経済の消費喚起を目的として、豊橋市や豊橋観光コンベンション協会などと豊橋市プレミアム付電子商品券実行委員会を組織し、25%のプレミアムを付与した電子商品券「TOYOPay」を発行した。当所として、商品券の販売促進や利用可能登録店の募集活動を展開し、販売総額は約4億4千万円、登録店舗数は当所会員事業所を含む654件となった。

【課題認識・状況】

- ▶ 年度内に、第4～6波の拡大が起き、飲食店やイベント業、宿泊・観光業を中心に大きな影響をもたらした。
- ▶ 相談窓口の対応件数は、前年度と比較し、約60%減少し、寄せられる相談内容も、雇用維持や事業継続、資金繰りから、業態転換や新たな取り組みにシフト。

【今後の取り組み】

- ▶ 事業再構築や売上回復のチャレンジを後押しするほか、借入金返済開始による資金繰り悪化をサポート。
- ▶ 市内の消費喚起に資する「TOYOPay」事業への継続参画と周知徹底。

2. 政策・制度に関する提言・要望活動

- ① 日本商工会議所や東海商工会議所連合会、愛知県商工会議所連合会の諸会議に出席し、要望のとりまとめや、広域的な意見の具申等を行った。

- ② 東三河広域経済連合会の全体会議において、産業分野における広域的な諸課題について協議するとともに、関係自治体などと一体となり設楽ダム建設事業促進に関する要望活動を行った。
- ③ 業種業界の意見を集約し、感染症の影響への対応、中小企業施策、商工業関連施策、社会基盤整備等に関する政策提言・予算確保要望を豊橋市長に対して行ったほか、関係行政や豊橋市議会との各種会議を開催し、課題共有や事業活動協力のための意見交換を行った。



豊橋市への要望
(R3/10/11)



市議会との意見交換会
(R4/1/26)

【課題認識・状況】

- ▶ 豊橋市幹部との政策懇談会のほか、新たに設けた豊橋市議会との意見交換会の実施により、人口減少・少子高齢化等への危機感を改めて共有。
- ▶ 受発注やと届出等の業務効率化やICT活用を目指し、建設業部会は、市役所関係部局との協議を継続。

【今後の取り組み】

- ▶ 産業政策や社会資本整備に加え、人口減少対策や地域の魅力増進に資するため、「教育・子育て・就労・居住・公共交通」など生活環境改善への提言・要望活動にも注力する
- ▶ 当所独自の取り組みとして、セミナーや事例紹介を通じ、企業における女性・高齢者・外国人の活躍を促す。

3. 会員サービス事業の充実と組織・財政・運営基盤の強化

(1) 組織強化と財政基盤の確立

- ① 年度末現在の会員数は、5,136会員で、組織率37.4%となった。
- ② 会員企業の福祉向上と特約施設の利用促進に努めるため、各種共済制度の充実・推進を図った。生命共済については、6月より新制度に移行し、商品力向上と制度安定化を図った。

- ③ 生命共済契約者の満足度向上を図るため、優待事業として 11 月に「定期健康診断の割引受診」を加入事業所の従業員・家族を対象に実施した。
- ④ 企業の賠償責任リスク、事業休業、財産・工事に関わる保障を総合的にサポートするビジネス総合保険や労災対応型商品（労災上乗せ補償）の業務災害補償プランをはじめとした集団扱い損害保険制度の加入促進を図った。
- ⑤ 労働保険事務組合への加入促進に努め、委託事業場は 313 事業所となった。

【課題認識・状況】

- ▶ 感染症関連の経済対策への対応や補助金支援などをきっかけとした入会が増加する一方、廃業等を理由に脱会に至るケースも多い。
- ▶ 貸会議室は、コロナ禍による行動変容の影響もあり、利用回復が緩やか。パーティー等の開催も自粛傾向。

【今後の取り組み】

- ▶ 商品価値向上を図った新生命共済制度のほか、各種保険制度の加入促進を図り、財務基盤を強化する。
- ▶ 貸会議室は、デジタル活用による利便性向上のほか、時代にあった機能整備を図る。

(2) 会員サービス事業の実施

- ① 中小中堅企業の海外進出等をサポートする「海外展開支援室」において、専用サイトを通じた展示会やセミナー等の情報発信のほか、個別事業所への取引先照会など、販路開拓や取引拡大の支援を行った。
- ② 会員企業における職場の健康管理を促進するため、豊橋市医師会と連携して「健康診断」事業を実施し、182 名が受診した。また、地元医療機関と提携し、「PET-CT 検診」事業を実施し、21 名が受診した。
- ③ 販路拡大支援事業として、当所広報誌ニューボイスへのチラシ同封サービスを実施し、年間 116 件の利用があった。
- ④ 貿易関連諸証明として、原産地証明 889 件、インボイス証明 19 件、サイン証明 190 件を行ったほか、地域的な包括的経済連携（RCEP）協定や特恵原産地証明などに関する問い合わせに対応した。

【課題認識・状況】

- ▶ 会員サービス委員会では、ニーズに基づいた会員向け事業の改善を継続的に議論。

【今後の取り組み】

- ▶ 事業承継やデジタルシフトなど、重要な経営課題の解決と直結した会員サービスメニューを創設する。

(3) 広報活動・調査事業の実施

- ① 広報誌「ニューボイス」やメールマガジン、HP に加え、公式ブログを新たに開設し、会員はじめ諸機関に広く当所事業を紹介するほか、経営支援制度など有益な情報の提供に努めた。
- ② 広く当所の諸活動を PR するため、定例記者会見等を 5 回開催したほか、会員企業等の情報発信支援のため、165 件のプレスリリースを行った。
- ③ LOBO 調査、中小企業景況調査、景気動向調査、大型店販売動向調査等の調査を行い、地域経済の現況把握と情報提供を行った。

【トピックス】 公式ブログ「Bizoo」開設

- ▶ 開設日：令和 3 年 7 月 28 日
- ▶ 掲載記事数：178 件（令和 4 年 5 月末時点）
- ▶ 閲覧実績：70,130PV（ " ）
- ▶ 取扱情報：観光・地域紹介、イベント告知、補助金・制度、飲食店・グルメ情報など
- ▶ 備考：ブログ運営企業より、地域密着ブログとして応援したいとオファーを受け、「ローカル・ブロガー・プログラム」に採用。地域内のみならず、全国からもアクセスが増加。

4. 中小企業に対する支援の充実

(1) “伴走型支援”による相談対応

- ① 高度で専門的な経営相談に対し実践的な課題解決を図るため「豊橋商工会議所ビジネスサポートセンター」を通じ、(株)サイエンス・クリエイト、豊橋信用金庫、日本政策金融公庫豊橋支店、よろず支援拠点、その他関係機関と連携を図り、各種経営相談に対応した。
- ② 弁護士や税理士、弁理士、社会保険労務士などの専門家による定例専門相談を延べ 50 回開催し、53 名が利用した。また、実践的に経営課題の解決を図るため、事業所へ 92 件の専門家派遣を行った。
- ③ 経営全般を総合診断する「企業ドック」等を通じて、50 件の経営課題等への相談に対応した。
- ④ 感染症関連施策を含む国の中小・小規模事業者向けの各種補助金の活用・申請に関する相談に対応し、小規模事業者持続化補助金を中心とする 183 件の申請支援を行った。
- ⑤ 国の認定を受けた経営発達支援計画に基づき、伴走型小規模事業者支援推進事業費補助金を活用し、各種支援事業を展開したほか、「経営発達支援計画評価委員会」を設け、支援事業及び計画内容の評価・見直しを図った。

- ⑥ 豊橋市や(株)サイエンス・クリエイト、地元金融機関とともに、市内の創業者を支援する「とよはし創業プラットホーム」に参画し、延べ 184 件の窓口・巡回相談に対応するほか、とよはし創業塾などの支援事業を実施した。
- ⑦ 4月に当所 2 階に開設した「愛知県事業承継・引継ぎ支援センター 豊橋サテライト」とタイアップし、事業承継計画策定支援を行った 8 件を含む、18 事業所からの相談に対応したほか、豊橋市や同センターなどと形成した相談支援の地域プラットホーム「とよはし事業承継ひろば」を通じ、親族承継、M&A・第 3 者承継などをテーマとしたセミナーを 2 回開催した。



事業承継・引継ぎ支援
センター開設 (R3/10/11)



新入社員研修
(R3/4/7)

【課題認識・状況】

- ▶ 事業承継・引継ぎ支援センターの開設により、相談ニーズの掘り起こしがなされた結果、東三河全体の相談件数のうち約 51%を占める。後ろ向きなマイナス印象が消えつつあり、創業・起業の入口としても認知が進む。
- ▶ 政府系金融機関の調べでは、他地域と比較し、東三河の創業相談は、企業規模は小さいものの件数は多い傾向。
- ▶ コロナ禍により、多くの事業所でテレワークやクラウドの利用でデジタルシフトは進んだが、生産性向上や競争力強化の分野での活用までには至っていない。
- ▶ 令和 5 年 10 月に消費税インボイス制度が導入されるが、多くの中小企業において準備が進んでおらず、制度理解も不足している。

【今後の取り組み】

- ▶ 事業承継問題の解決は、地域活力の維持発展に不可欠。一層の相談ニーズの掘り起こしを進めるとともに、事業承継・引継ぎを契機に、業態転換や新規事業に着手する事業所を積極支援。
- ▶ IT 導入支援委員会では、地元企業のデジタルシフトを支援するための相談体制や支援メニュー等を検討。IT ベンダーや通信事業者と連携した、実践型のデジタル導入支援体制を構築。
- ▶ 消費税インボイス制度の理解を深め、早い段階での準備着手を促すため、地元金融機関や税理士会などとタイアップし、セミナーや相談会を積極的に展開する。

(2) 人材育成・雇用確保等の人材サポート事業の推進

- ① 人材の確保や就業機会の創出を図るため、無料職業紹介所を通じて就職斡旋を行い、延べ求人企業 304 社（延べ求人数 984 名）、延べ求職者 203 名が登録・利用し、29 件の求人者を紹介した結果、10 名が就職に至った。
- ② 各種講習・講演会・能力開発セミナーを 22 回開催し、延べ 505 名が参加した。また、時間や場所の制約を受けず幅広い内容のセミナーが受講できる「WEB セミナー」を配信し、6,829 回の視聴利用があった。
- ③ 東三河広域経済連合会の人財育成事業の一環として、高度な知識や技能を持った優秀な企業人材の育成を図るため「東三河産業アカデミー」のシリーズ名称により専門性の高い講習会・セミナーを 17 回開催した。
- ④ 若者の地元企業への理解や就職意欲を高める「ビジネスパーク」を春、秋の 2 回にわたり、市内中学校 20 校及び豊橋工科高校で参加生徒数 3,374 名、講師数 275 名により、194 講座を開催した。
- ⑤ 学生就職情報センターにより、東三河合同企業説明会や業界研究・インターンシップフェア等を延べ 408 企業の参加を得て、オンライン型を含め 11 回実施し、579 名の学生が参加した。また、専用 HP「東三河学生就職 NAVI」や就活ガイド冊子「東三河就活読本」を通じて企業情報を公開した。
- ⑥ キャリア教育と企業の認知度向上を図るため、地元大学生と企業が学食で交流する「モグジョブ」及び WEB 形式による「オンラインモグジョブ」を実施し、会員事業所 49 社が 113 名の地元大学生と交流した。
- ⑦ 社会人のキャリアアップやリカレント教育、高齢者・女性等のスキル向上に資するため、「豊橋商工会議所パソコン教室」を運営し、延べ 3,123 名が 20,546 回受講した。また、資格の大原浜松校と提携し、簿記、社会保険労務士、宅地建物取引士などの各種資格取得講座を実施した。
- ⑧ 日本商工会議所との共催による「簿記、珠算」の集合型検定試験のほか、新たに「簿記（2 級・3 級）、リテールマーケティング（販売士）、ビジネス英語」等を加えたネット試験を実施した。
- ⑨ 受験者が自身の機器やインターネット環境を利用して受験する IBT 方式を新たに採用し、東京商工会議所との共催による「福祉住環境コーディネーター、カラーコーディネーター、ビジネス実務法務、環境社会（eco 検定）、ビジネスマネージャー」等の各種検定試験を実施した。

【課題認識・状況】

- ▶ 感染症の影響を受け、採用を控える動きもあるが、地域企業の人手不足感は、コロナ禍前から継続。
- ▶ 令和 5 年春、豊川市に大型商業モールがオープンする。3 千人とも言われる雇用が発生するため、地域の労働市場に与えるインパクトは極めて大きいと予測。
- ▶ 未婚化・晩婚化によって出生率が低迷し、若者世代の流出も止まっていない。
- ▶ 働き方改革や感染拡大防止のため、テレワークが一気に浸透。大都市のリスクも顕在化し、企業の地方移転や人口流出が新たな潮流に。

【今後の取り組み】

- ▶ 新卒、中途の採用支援に一層注力するとともに、女性や高齢者、外国人などが活躍できる就業・生活環境の向上、従業員のスキルアップや学び直しの機会創出を図る。
- ▶ 予測される労働人口減少を地域全体の危機感として共有し、移住・定住促進に繋がる取り組みを官民連携で推進する。

(3) ビジスマッチング支援事業の実施

- ① 東三河及び周辺地域の商工会議所・商工会、地域金融機関・関係支援機関と連携し、販路拡大などのビジスマッチング支援事業「地域の絆情報交換・商談会」（主催：東三河広域経済連合会）を開催し、登録企業 181 社のうち 139 社が参加して、オンラインも活用し 265 件の商談を行った。
- ② メディアを活用した企業の販促活動を支援する「プレスリリースサポート」を 18 社が利用し、うち 15 社がメディアに掲載された。

(4) 小規模企業等経営改善普及事業の推進

- ① 経営指導員 11 名、補助員 3 名により、1,807 件（巡回 237 件、窓口 1,570 件）の小規模事業者への各種相談指導を行った。

(5) 各種融資制度の普及および利用促進

- ① 小規模事業者経営改善資金（通称：マル経）については、感染症の影響を受けた事業所向けの別枠融資を含め、15 件・総額 4,750 万円を融資推薦した。また、豊橋市の利子補給補助金により制度利用者の負担軽減に努めた。

(6) 経営安定に向けた支援

- ① 地震等災害時における対応策として、事業継続力強化計画セミナーや東海リスクマネジメント研究会と連携した第 17 回防災フェアを開催した。

- ② 「健康経営」の普及啓発を図るため、損害保険会社や協会けんぽ等と共催によりセミナーを 2 回開催したほか、豊橋市や協会けんぽとともに「とよはし健康宣言事業所」の普及促進や認定・表彰を行った。



春のビジネスパーク
(R3/6/7~11・16)



地域の絆 情報交換・商談会
(R3/11/17~18)

5. 地域産業振興事業

(1) 中心市街地の活性化と商業振興

- ① (株)豊橋まちなか活性化センターと連携し、市電おかえりキップサービス事業、共通駐車券事業、まちなかインキュベーション事業等を実施し、中心市街地商業活性化に向けた各種事業を展開した。
- ② 第 34 回都市デザイン文化賞を「MINATO SETSUBI KOGYO」に贈った。
- ③ 豊橋発展会連盟と連携し「とよはしキラキラ☆イルミネーション」をはじめとする各種イベント、「商業団体街路灯等電料補助事業」の事務代行など商店街活動への支援を実施した。

【課題認識・状況】

- ▶ 図書館や広場を含む emCAMPUS EAST のオープン、相次ぐ大規模マンションの建設など、中心市街地の様相や人の動きが大きく変化。
- ▶ 中心市街地のプラットフォームとして、「豊橋まちなか未来会議」が発足。

【今後の取り組み】

- ▶ (株)豊橋まちなか活性化センターの運営基盤を拡充し、公共空間活用や賑わい創出を積極的に展開。

(2) ものづくりの振興と新産業創出支援

- ① 東三河の商工会議所・商工会と(株)サイエンス・クリエイト等により組織する「東三河産業創出協議会」において「東三河ものづくり大賞 2022」を実施したほか、地域内連携を活発化させて新事業創出を目指す「東三河産学官金連携形成委員会」を設立し、シーズ発表会や技術セミナー等を行った。
- ② 「ものづくり博 2022in 東三河」（主催：東三河広域経済連合会）の開催に向けて企画準備を行った。

(3) 観光コンベンション事業

- ① 東三河の観光コンベンション機能充実に向け、豊橋観光コンベンション協会、愛知県東三河広域観光協議会、三遠南信・伊勢志摩広域観光協議会などとともに、宣伝事業やコンベンション誘致支援などを行った。
- ② 手筒花火 PR 動画「47 都道府県に届け！豊橋から手筒花火でエール！」を活用しプロモーション活動を展開したところ、「4K・VR 徳島映画祭 2021」において「徳島県知事賞」を受賞し、全国に向けた認知度向上に繋がった。

6. 地域基盤整備事業

(1) 三河港の整備と利用促進

- ① 三河港振興会などと連携し、国、県等に対し、臨港道路東三河臨海線の整備促進、港湾物流機能及び防災・減災機能の強化等を重点に積極的な要望活動を行った。
- ② 要望活動を通じ、国や県に着実な港湾計画改訂を求めるほか、三河港港湾計画検討委員会に参画し、次期港湾計画への積極的な意見具申を行った。

【課題認識・状況】

- ▶ 世界屈指の国際自動車港湾としての地位を確立しているが、自動車産業が大変革期を迎えているなか、背後圏の産業やサプライチェーンの動向を注視すべき。

【今後の取り組み】

- ▶ 産業構造の変化や地域産業の未来を展望し、貨物需要を創造・発掘するとともに、新たな役割や機能、運営を模索する。

(2) 広域交通ネットワークの整備促進

- ① 東三河地域や三遠南信地域の市町村の行政、商工会議所・商工会などと連携し、三遠南信自動車道、浜松湖西豊橋道路、東三河縦貫道、名浜道路、三河港へのアクセス道路等の整備促進について要望活動を展開した。

【トピックス】 浜松湖西豊橋道路

- ▶ 国土交通省が、対応方針案としてのルート案を公表。今後、都市計画・環境アセスメントのための調査を進める。事業化に向けて着実に前進している。

【トピックス】 名豊道路

- ▶ 未開通区間であった蒲郡バイパスの豊川為当 IC - 蒲郡 IC 間が令和 6 年度に開通する見通しになり、全線開通が目前に。

(3) 水資源の確保

- ① 設楽ダム建設に向けた国への働きかけ、及び水源地域の振興等について、東三河の経済界が一体となって愛知県へ要望した。

【トピックス】 設楽ダムの工期延長

- ▶ 工期：令和 8 年度 ⇒ 令和 16 年度（8 年延長）
- ▶ 総事業費：2,400 億円 ⇒ 3,200 億円
- ▶ 理由：新たな地すべり対策、掘削量の増加、働き方改革による作業時間減少 など
- ▶ 懸念：水源地振興や治水・利水の影響、東三河広域連合の「東三河山村交流拠点施設」整備の遅れ

(4) 環境問題への対応

- ① 第 10 回環境経営賞は、最優秀賞をトピー工業(株)豊橋製造所、(株)新来島豊橋造船、優秀賞を(株)渥美フーズ、(有)根上建築、奨励賞を筆工房 由季、(株)ジェイアンドシーに贈った。
- ② 2050 年カーボンニュートラルを見据え、本質的な問題を理解し、地域経済・企業経営におけるチャンスを考えるヒントを得ることを目的にオンラインによる特別講演会を開催し、脱炭素経営の普及啓発を図った。

【課題認識・状況】

- ▶ 国際社会全体が、カーボンニュートラルに向けた対応を始めている。国や地域、事業者、住民など、あらゆる主体に具体的な取り組みが求められている。
- ▶ 豊橋市は、令和 3 年 11 月に「ゼロカーボンシティとよはし」を宣言し、2050 年までに二酸化炭素排出量ゼロを目指すこととした。

【今後の取り組み】

- ▶ 地域事業者が脱炭素経営への理解を深め、いち早く乗り出し、事業基盤や競争力の強化を図る実践を後押しする。

(5) 広域経済圏における連携

- ① 東三河広域経済連合会は、社会基盤整備やものづくり振興、広域観光などの広域的諸課題について協議検討、「健康な地域社会創造」、「産業と地域を支える人材育成」など重点プロジェクトを推進したほか、関係自治体や大学等の参加を得て、「東三河経済フォーラム 2022」を開催し、連合会の取組成果を共有するとともに連携の深化を図った。また、愛知県や(株)サイエンス・クリエイト、豊橋技術科学大学などと連携し、スタートアップ創出等を目的とした「東三河スタートアップ推進協議会」を発足させた。

- ② 県境地域の共通課題の解決に向けて、企業・行政・経済団体などで構成する「豊橋湖西豊橋道路や県境地域の道路整備事業についての勉強会を行った。
- ③ SENA 主催による「第 29 回三遠南信サミット 2021 in 東三河」が、「新たなニーズに選ばれる地域へ ～アフターコロナに対応した三遠南信地域の高付加価値化～」をテーマに掲げて開催され、移住者や地域おこし協力隊などをパネリストに迎え、地域内外から見た魅力や価値、コロナ禍を経た将来展望についてのパネルディスカッションを実施した。



スタートアップ推進協設立
(R3/10/7)



三遠南信サミット in 東三河
(R3/11/4)

【課題認識・状況】

- ▶ 変革が進む、地域社会や経営環境において、東三河、三遠南信という地域の枠組みを越え、新しい価値創造に基づく魅力的な地域づくりを推進しなければならない。

【今後の取り組み】

- ▶ ものづくり振興や人材育成など、従来のミッションに加え、スタートアップ創出支援、新アリーナ建設や東三河 DMO、移住定住促進にも果敢に対応していく。

7. 部会・委員会等

- ① 議員総会、常議員会、議員昼食会、役員懇談会などを定例的に開催し、情報の伝達と意見の集約及び交換等を活発に行った。
- ② 卸商業、小売商業、工業、鉄工業、繊維業、食品業、建設業、自動車関連業、理財、エネルギー、アグリサービス業、観光サービス業、港湾、不動産業、電子産業、サービス業、医療関連サービス業の 17 部会が部会毎の事業計画に基づいて、個別あるいは共同により講演会等、活発な部会活動を推進した。
- ③ 第 23 期の委員会として設置した、ええじゃないか推進委員会、ものづくり委員会、ビジネスパーク委員会、会員サービス委員会、IT 導入支援委員会において、それぞれのテーマに基づき事業推進や検討研究を行った。
- ④ 青年部は、ひとづくり、まちづくり、ことづくり、ええじゃないか、総務広報の各委員会事業を実施したほか、30 周

年実行委員会を中心に、ゴルフコンペや記念式典などの創立 30 周年事業を開催した。また、NHK 朝の連続テレビ小説を契機に繋がった東北地方の青年部など他地域との交流連携を深めた。

- ⑤ 女性会は、「希望」をテーマに、役員及び 3 委員会（文化・研修・交流）が中心となり、講演会・研修会等の例会を企画・開催した。また、第 53 回全国商工会議所女性会連合会オンライン総会、三河商工会議所女性会サミットなどにオンラインで参加し、積極的に交流を深めた。



女性会 11 月例会
(R3/11/16)



青年部 30 周年記念式典
(R4/2/19)

【トピックス】日本 YEG 東海ブロック大会が豊橋で開催

- ▶ 令和 3 年 11 月に開催された、愛知・岐阜・三重の 3 県の青年部を対象とする東海ブロックの会員総会において、令和 5 年度の豊橋大会開催が承認された。
- ▶ 令和 5 年 9 月 29 日・30 日に、東海ブロックに属する 39 単会の青年部会員ら、約 2,000 名が豊橋を訪れる予定。

8. 感染症により中止した 主な事業

(1) 会員サービス事業

- 共済契約者向け優待企画
- 会員懇談会
- 婚活パーティー「とよはし婚活はええじゃないか」

(2) 中小企業支援事業

- セルフモチベーション向上講座
- クレーム対応講座

(3) 地域産業振興事業

- 豊橋まちなか歩行者天国（春 5 回、秋 5 回）
- 高等学校エコカーレース総合大会、ものづくり教室
- 第 26 回炎の祭典（青年部企画スピンオフを含む）、弥生炎の舞
- ええじゃないか豊橋まつり関連事業（前夜祭、舞踊三昧、舞乱行列など）

(4) 地域基盤整備事業

- 豊橋みなとフェスティバル